

製品名: TACE ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab18602

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ADAM17
別名	ADAM17; CSVP; TACE; Disintegrin and metalloproteinase domain-containing protein 17; ADAM 17; Snake venom-like protease; TNF-alpha convertase; TNF-alpha-converting enzyme; CD antigen CD156b
遺伝子 ID	6868.0
SwissProt ID	P78536
免疫原	抗血清はヒト ADAM17 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 701-750

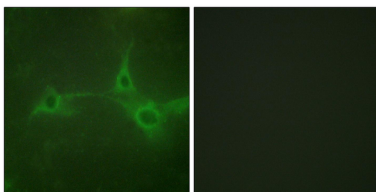
背景

ADAM メタロペプチダーゼドメイン 17 (ADAM17) Homo sapiens この遺伝子は、ADAM (ディスインテグリンおよびメタロプロテアーゼドメイン) ファミリーのメンバーをコードしています。このファミリーのメンバーは、膜アンカー型タンパク質で、構造的にヘビ毒ディスインテグリンに関連しており、受精、筋肉の発達、神経発生など、細胞間および細胞マトリックス相互作用を伴うさまざまな生物学的プロセスに関与しています。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって成熟プロテアーゼが生成されます。コードされているプロテアーゼは、腫瘍壊死因子 α の細胞外ドメイン切断に機能し、その際に可溶性の腫瘍壊死因子 α が膜結合前駆体から放出されます。このプロテアーゼは、細胞接着タンパク質、サイトカインおよび成長因子受容体、上皮成長因子 EGF 受容体リガンドなど、他の多数の基質の処理にも機能します。コードされたタンパク質は、活性化触媒活性においても重要な役割を果たします。狭いエンドペプチダーゼ特異性。膜結合型 26kDa の腫瘍壊死因子 α (TNF- α) の Pro-Leu-Ala-Gln-Ala-|-Val-Arg-Ser-Ser-Ser を切断します。同様に、他の膜アンカー型細胞表面タンパク質も切断し、細胞外ドメインを「分離」します。補因子: サブユニットあたり 1 つの亜鉛イオンに結合します。ドメイン: 異なる基質を切断するには、膜アンカー型である必要があります。細胞質ドメインはこの活性には必要ありません。TNF および p75 TNFR の分離には、触媒ドメインのみが不可欠です。ドメイン: システインスイッチモチーフに存在する保存されたシステインが触媒亜鉛イオンに結合し、酵素を阻害します。活性化ペプチドの放出に伴う亜鉛イオンからのシステイン解離により、酵素が活性化される。機能: TNF- α の膜結合型前駆体を成熟可溶性形態に切断する。p75 TNF 受容体、II 型インターロイキン 1 受容体、p55 TNF 受容体、形質転換成長因子 α 、L-セレクチン、成長ホルモン受容体、MUC1、アミロイド前駆体タンパク質など、他の細胞表面タンパク質のタンパク質分解による放出を担う。また、Notch 経路の活性化にも関与する。誘導: 関節炎罹患軟骨において、オンライン情報: 腫瘍壊死因子 α 変換酵素の進入、PTM: リン酸化。成長因子またはホルモンの 12-ミリスチン酸 13-酢酸による刺激は、Ser-819 のリン酸化を誘導するが、Ser-791 のリン酸化は減少する。PTM: 前駆体はフルリンエンドペプチダーゼによって切断される。類似性: ディスインテグリンドメインを 1 つ含む。類似性: ペプチダーゼ M12B ドメインを 1 つ含む。サブユニット: MAD2L1 および MUC1 と相互作用する。組織特異性: 普遍的に発現する。成人の心臓、胎盤、骨格筋、膵臓、脾臓、胸腺、前立腺、精巣、卵巣、小腸、そして胎児の脳、肺、肝臓、腎臓で最も高いレベルで発現する。

研究分野

Notch;アルツハイマー病;ヘリコバクターピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;

画像データ



ADAM 17 抗体を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。